



11.3 憲法集会 in 京都円山集会以で請願署名・宣伝活動



(593号付録)

京都版 第450号

2023年11月15日

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

京都府本部

〒604-8832 京都市中京区

壬生下溝町 51-41

TEL : 075-312-8787

FAX : 075-325-3863

E-mail

Info@kokubai-kyoto.com

ホームページ

https://kokubai-kyoto.com

まるで夏日のような、11・3
円山憲法集会に1500人集う

「11・3憲法集会イン京都」
が、円山音楽堂で開かれました。
原田完会長を先頭に同盟府本
の署名活動をおこないました。
集会では、ロシアのウクライナ
侵略戦争やイスラエルのガザ
地区への攻撃にたいするアピ
ールが採択されました。とりわ
け、「これ以上のガザ市民への
殺戮行為は許せない！イスラ
エルとハマスは国連決議に従
い即時に停戦せよ！」の緊急決
議が採択され、円山公園から市
役所前までのデモ行進では、ラ
ップ調のシュプレヒコールも
ガザ・ジェノサイド止めるの声
も響きました。
当日の特別講演は、猿田佐世介
護士（新外交イニシアティブ代
表）でした。

先月号の続き（西谷講演）

万博もカジノも現場の実態は
23年4月、万博開催まで
と2年、せつせと山土で埋め立
て。万博をしなければ、ごみ処
分場である夢洲をそのまま使
い続けられたのに、①税金で山
土を買って埋め立てている②
ゴミや浚渫土の新たな処分場
をつくらねばならない、二重に
税金の無駄使いになる。

なんと海外パビリオン申請
が当て外れで、まだ更地。この
ままでは、「大阪・更地万博」だ。
海外パビリオンの「タイプA」
は参加国の建設責任がゼロで、
主催国建設で金は後払いのお
願い参加、後払いでは、未払い
金はどうなるのか？。尻ぬぐい
は税金になる。

万博も突っ込みどころ満載だ

万博協会は入場者数を30
00万人と見込み。この半数が
地下鉄、残りを大阪駅や新大阪

駅からのシャトルバスで輸送するという。しかし、夢洲へのアクセスは夢舞大橋と夢咲トンネルのみ。この計画どうりにいけば、大阪は大渋滞。もしバスで行くのならトイレつきのバスに乗らなければ大変なことになる。

隣のユニバーサル・スタジオジヤパンでも年間入場者1300万人弱、しょぼいバピリオンで期間は半年、入場料は7500円もする万博にそれほど客がくるとは思えない。

ガラガラなら大赤字

結局あせった政府と維新は、関西経済連合会傘下の企業に万博のチケット20万枚を売りつけ。1社あたり、約10億円の前売りチケットを買えというのだ。こんなことをやれば、大企業は下請け孫請けにおしつけて、「万博倒産」だ。

◎本籍地・京都府大江町出身の溝川良治(1909年〜1985年)の検挙歴4回目は、「対米英宣戦布告に伴う非常措置で検挙・予防検束・予防拘禁などされた全国396人の内、大阪関連38人のひとりだった。

戦前の官立大阪外国語学校(以下、大阪外語と略す)の学生たちの「社会科学研究会」の活動を発掘する研究会(成瀬龍夫代表・元滋賀大学学長)が、10月24日に滋賀大学サテライトオフィスセミナー室で開かれました。テーマは「外語を退学になった溝川良治の学籍簿の開示請求」をした息子・溝川悠介大阪府立大学名誉教授から、個人情報保護法の問題点を聞きました。

2019年4月5日に大阪大学(外語の後継校)は「学籍

簿」や「教授会記録」の法人文書公開は、情報保護法第5条第1号の個人情報(特定の個人を識別する情報)に該当する「学籍簿」は不開示とされ、「教授会記録」は戦災のため「不存在」とされました。

退学処分と論旨退学の関係

―溝川良治のこと

(これは、「論旨退学」というダマシの手口で学校を追われた我が父「溝川良治」の生きざまを知りたい!父の人権を復権する民主主義闘争の覚悟を佐藤は感じました。)

京都府大江町から、一家を挙げて大阪に転居しました。

わが父・溝川良治は、高津中学から1928年4月に大阪外国語学校ドイツ語学科に入学し、翌29年3月16日に「論旨退学」となりました。その間、大阪外語の社会科学研究会に

入会しました。社会科学をみにつけ、文部省の学生左傾化対策の「思想善導」に反対する関西地区の同盟の外語選出の役員などをやりました。翌29年3月16日に「論旨退学」となりました。学校当局は、社研関係者に「退学せよ」と迫り、退学に応じないと「退学したら1年後には、また自分の当初の学年に入ってもらえるようにするから」などの甘言を弄して、退学届の自主的提出を迫ったのでしよう。溝川良治は「論旨退学」とは名ばかりの事実上の退学処分で、行政処分ではないので学校には関係がないということでしょうか。

全協の戦闘的活動家となる

4月27日午前5時ごろ、共産党大阪市委員会のメーデー宣伝行動隊の一員として3種類のピラマキで朝日署に検挙

されました。起訴には至らず。32年2月ころより、全協日本医務労働組合で活動(全協医務は全協一般使用人組合に発展的に解消)32年4月上旬に共産青年同盟に加入後、共産党にも入党。全協日本交通大阪支部が8・26弾圧後に新京阪電車、国鉄など15分会まで組織拡大したところ、32年3月に責任者が検挙され、4月後任の責任者も検挙されました。その後を継いで、5月全協交通大阪支部の責任者となりました。同年6月17日に検挙され8月3日起訴されました。(無職、24才)

1938年9月、春日庄次郎らの「日本共産主義者団事件」で「非転向者グループ」「研究会グループ」として検挙されるも起訴には至らず。(29才)

41年12月9日、対米英宣

戦布告に伴う非常措置で「非法グループ」として検挙されました。(32才)

いま問われる、治安維持法犠牲者の事績・研究・検証活動の全文化交流を

息子の溝川悠介さんは、父親の足跡を知りたくて大阪外国語学校の後身の「大阪大学」に学籍簿や退学させるための「諭旨」を協議した教授会記録の開示を請求しました。個人情報の開示請求運動を通じて、顕彰活動の前進と突破すべき壁の存在をかたりました。

大阪外語社研究会(成瀬龍夫代表)は、2021年は大阪外語大学創立100周年にあたり、「大阪外国語大学・大阪大学外国語学部百年史」編纂では治安維持法弾圧事件を取りあげるよう要請しところ、「大阪外語社会科学研究会弾圧事

件100年の時を超えて」

(文責・「研究会」代表成瀬龍夫)が掲載されました。

【参考資料】

▽「時代に抗して光を求めた人々」(治安維持法犠牲者名簿・大阪)

▽溝川悠介氏の「個人情報保護法学習会資料」

(文責・佐藤和夫)

女性交流集會に参加して

↳治安維持法で闘った

義父・児玉誠を偲んで

集會への参加をきっかけに義父・児玉誠の足跡を振り返ることができました。

義父は、明治35年(1902年)12月5日京都府与謝郡加悦町で貧乏士族の三男として生まれ昭和63年(1988

年)5月27日死去(昭和天皇死去より1年近く前に死去)

現在、東京青山墓地、大阪解放戦士の墓地、京都解放戦士の墓地に眠っております。

尋常小学校卒業後は、家が貧しく大阪船場へ丁稚奉公に行きました。しかし勉強が大好きで夜中、蝋燭とか行燈の明かりのもと、独学で勉学に励みその時の知識が、のちの地下活動にも役に立ち、また戦後は、生活のためのガリ切からの印刷業を起こすことになったのです。

義父は、若かりし頃より文化、芸術に心を奪われ文化活動に命をささげる事となりました。世の不条理、怒り、批判を短歌にぶつけ啄木研究会にも所属しておりました。

戦前の活動は大阪が主でした。大阪では、無産者芸術連盟(ナップ)の機関誌であった

「戦旗」社支局2代目責任者森本宗二の後を受け継ぎ3代目責任者をしておりました。そのうちプロレタリア作家同盟でガリ切り等の活動していたようです。

治安維持法で投獄されたのは何回もあったようですが、最長で103日と聞いております。103日に及んだ時は「拷問に耐え切れずもうダメかと思つた」と、それほどきつかつたのであつたかと思ひます。その時、たまたま何かの恩赦によりかろうじて転向せずに釈放されたのであります。

このことから「たとえ特高の拷問により供述・転向した人々を責める資格は誰にもない」と言つておりました。

戦後3年ほどして(1948年ころ)京都に移り住み印刷所を起こし生計を立てたの

でした。でも印刷所では赤字ばかりで食べていけず嫁さん(義母)に苦労ばかりかけていたようです。

そして1965年「煙」を創刊し23年間に53冊発行したのです。

この同人誌は治安維持法で弾圧された人たちが、その体験を語り、のちの世に役にたつよう文章に残したのでした。

私が義父の息子・児玉世志人との結婚により児玉誠に出会ひ「煙」の発行に携わる事になりました。印刷で食べていけるよう必死で働きました。

義父はとても穏やかで優しく美しいひとで戦前の地下活動で投獄され拷問に耐えた偉大な戦士とはとても思ひませんでした。今更ながら感じ入つております。感謝の気持ちでいっぱいです。

同人誌「煙」のタイトルになったもとは、終刊号でどなたかが述べておられますが、義父は「炭を焼くような」人であつたのでは?もうもうと立つ煙ではないけれど細く長く続く煙であつたかと思ひます。

煙が風にのり遠くまで人々の心に少しでも届いたのであれば義父は幸せな人生であつたのではないのでしょうか。

同人誌「煙」の内容を話すと何時間あつても足りません。全巻CD化して保存しております。

義父は、88歳までは生きていたいと願つておりましたが病には勝てず、まだまだやりたいことを残して85歳で肺がんで亡くなりました。

集会へ参加させて頂いたお陰で夫と共に児玉誠を再度見つめ直すことができました。

ありがとうございました。

私たちは、治安維持法により多くの犠牲になられた人たちの歴史の上に今があるのです。先人の尊敬する人たち「本当にありがとうございます」。

歴史から学び前へ進むことの重大さをこの集会で多くを学ぶことができました。

今現在戦争ができるように憲法を変えようと画策したり、どんどん法律が作られてきています。私たちは未来の若者たち、子供たちが二度とあのような時代に戻らないよう踏ん張つて戦わなければならないと思ひます。

自由と平和を求めて頑張つていきたいと思ひます。

2023年10月29日
第32回全国女性交流集会にて

京都 児玉佳子